

# 災害時の医療活動支援へ

## QRコードに 患者情報記録

ITベンチャーのマイクロインテレクス（小松島市）は同市医師会などと連携し、自社のQRコード技術を活用して大規模災害時の医療活動を支援するシステムの開発を始めた。被災した患者の情報を記録したQRコードを、医師らがスマートフォンで閲覧し、適切な治療を行う。インターネットが切断された状況でも、患者の持病や服薬などの情報が得られ、迅速な対応が可能になる。

### マイクロインテレクス（小松島）

新システムの名称は「ユーミック」。マイクロインテレクス、市医師会、阿波製紙（徳島市）、テクノモバイル（東京）、小松島ロータリークラブが連携協力に合意し、今秋から実証実験を始める。

新システムでは、担当の医師らが患者の持病や服薬、既往症などをQRコードに記録、印刷した紙を患者に配る。災害時には、避難所に逃れた患者のQRコードを、応援に駆けつけた医師らが専用

## 医師会などと連携 システム開発

アプリをダウンロードしたスマホで閲覧、治療を行う。対象は在宅医療を受けている患者で、災害時以外の活用も想定している。

新システムは、マイクロインテレクスが開発した、従来よりも大量の情報が記録可能なQRコード技術を活用。印刷する紙は阿波製紙が塩水に強く、破れにくい製品を供給し、専用アプリは、テクノモバイルが開発する。

小松島市医師会在宅医療担当理事の寿満文彦医師は「東日本大震災では、避難所での治療の困難さが浮き彫りになった。新システムの活用で、医師がスムーズに治療が行えるようになるはず」と期待する。

マイクロインテレクスの斉藤孝弘社長は「南海トラフ地震に備え、災害時の医療活動についても考えなければならぬ。実証実験を通じて改良を行い、全国的に普及するシステムにしたい」と話している。

（三木研司）